

これからのエンジニアリングを担う技術開発

Activities of R&D for Engineering Business in Future

小菅 茂義 エンジニアリング研究所 所長 常務 Shigeyoshi Kosuge

エンジニアリングはプラントや設備およびソリューションを最高のコスト/パフォーマンスで顧客に提供する知的集約事業であり、当然その対象となる事業分野は時代の変化や要請に応じて変化し続けなければならない。当社のエンジニアリング事業も発足当初の造船主体の事業領域から、現在のエネルギー、環境、水、プラント、鋼構造、船舶・海洋といった事業分野へと拡張、変貌をとげてきている。さらには、厳しい事業環境を踏まえ、事業力強化の一環として、船舶、製鉄プラントは事業統合会社の設立、その他のエンジニアリング事業分野は JFE エンジニアリング㈱として新たな出発を目前に控えている。

NKK 技報としては最終号を迎えた今、これまでのエンジニアリング事業の足跡を再確認する意味で、社史に目を通すと、エンジニアリング事業部の前身である重工本部の1972年度方針が目にとまった。その方針とは「特色ある総合エンジニアリング体制の確立」、「重点分野の選定と技術の開発・育成、プロジェクト体制の強化」であり、重点分野として「エネルギー、国土開発、環境保全」が掲げられている。この方針に則って事業が展開され現在に至っているが、今日でも概観的には共通する点も多い。

しかし、その中身となると、高度経済成長期を迎えていた当時と、(1)

ハイクリーン DX (灰中 DXN 揮発脱離分離) バイオチューブシステム (下水高度処理)*
--



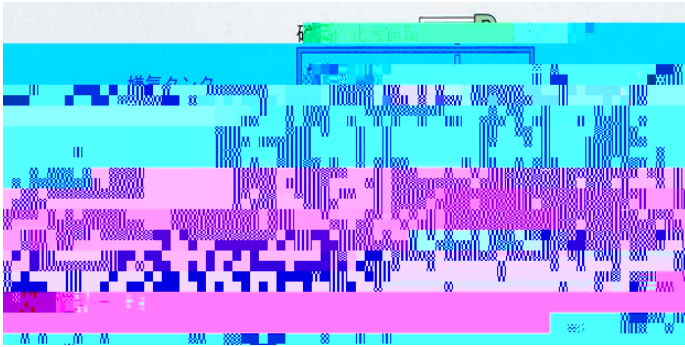


図 2